

生活支援工学に資する研究・実践に対する研究助成の成果報告会

未曾有の少子高齢化がますます進展する我が国において、テクノロジーを活用した新たな社会像の提示やその実現に向けた課題の整理、あるいは、高齢者等の暮らしのあり方に関する新しい示唆が待たれている。日本生活支援工学会では、生活支援工学の観点から新たな展開を開拓する諸活動を推進する一環として、生活支援工学に資する研究や実践に対する助成事業に取り組んでいる。このセッションは、その成果報告を広く共有することを主たる趣旨とする。また、豊かな発想と幅広い見地から自由に意見交換し、生活支援工学の新たな開拓に向けて未来志向で開けた議論の場としたい。

S3-1 連携研究・産学連携工程に関連する課題調査

勝山 あづさ

神戸大学大学院保健学研究科 博士後期課程 大学院生／大阪医科薬科大学 看護学部 助教

本研究では、連携研究・産学連携にて異分野・異職種が協働する際の計画遂行や成果公表における障壁を明らかにすることを目的に、研究者、専門職者、企業所属者を対象とした半構造化面接を実施し、質的内容分析を行った。その結果、関係者間で時間軸の認識が不一致であることや企業ドメインごとの知的財産権の割り振りが不明確であること、データの機密性から論文公表が困難であること、継続的なコーディネーター役割が不在であること等が障壁として認識されていることが示唆された。

S3-2 多様な介護の現場で働く多職種が福祉機器開発・改良に直接提言できるプラットフォーム構築と効果指標の検討

安藤 菜摘子

大阪大学医学系研究科保健学専攻 博士後期課程

福祉機器の開発・改良には、企業側のシーズと医療・介護現場のニーズが直結し、迅速に実現されることが望ましい。しかし、現場側から討議の機会や伝達手段を見出す事が難しく、多様なニーズが開発側に伝えられぬまま埋もれてしまう事も多い。そこで私たちは、多施設・多職種の様々な視点からの意見を、直接企業側と丁寧に討議できるプラットフォームの構築を目指し、活動を進めている。多様なニーズを満たす機器開発が円滑・迅速に行われることで、広く生活支援に貢献したいと考えている。

S3-3 「ニーズ・アンド・アイデア・フォーラム」を通じた生活支援工学分野人材の育成

井上 淳

東京電機大学工学研究科 准教授

「ニーズ・アンド・アイデア・フォーラム」とは、医療福祉分野、デザイン分野、工学分野の学生が混成チームを組み、障害当事者からニーズを聞き取ってものづくりを行う取り組みである。この取り組みを通じ、工学技術が分かる医療福祉人材、デザインまで考えられる工学人材、臨床現場のニーズが理解できるデザイン人材などを育成することを目指して活動を行ってきた。その取り組みについて紹介するとともに、本発表では特に、2020年度以降完全オンラインでの取り組みで得られた、オンライン協働によるものづくりの特徴と課題についても述べる。

S3-4 高齢者を対象とした技術の導入や受容をめぐる倫理的、法的、社会的課題に関する議論をするためのコミュニケーションデザイン

二瓶 美里

東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授

高齢者の暮らしは、心身機能や生活様式に加え、生きがいや意欲など人によりさまざまである。それを受けて、高齢者の暮らしを支えるテクノロジーには、多様性の理解と深い洞察、技術受容などを総合的に検討していく必要がある。本取り組みでは、技術の導入や受容をめぐる倫理・法的・社会的課題に関する課題の整理と議論を行い、学術的な議論ができる場を作ることを目的とする。本報告では、学際的なメンバーでの研究経過と、技術とともに生きる私たちの将来像に関する総合的な議論について報告する。